

89名二十歳の門出を祝う

—上山区の祝舞披露も—



20歳の娘へ

おめでとう
小林晴子

初めての女の子。どれだけかわいことだろうと胸躍らせたあなたの誕生から20年。子育ては楽しい事ばかりのはずでもなく、複雑で困難な事の積み重ねでもありました。

不器用で理解や習得に多くの時間を要するあなたは、取柄でもある笑顔のせいかホントは困っている事に気づいてもらえず、人一倍苦労し悲しい経験もしましたね。『できない』『自分はダメ』と泣いて朝を迎えた夜もありました。嫌な事にも逃げずに向き合う努力を重ねて「結果」ではなく「挑戦したこと」に価値を感じるようになりました。その成長に喜びを感じています。これからも自分信じ夢に向かって歩み続けてください。ずっとずっと応援しています。

えんじょくどい

正月に「二十歳の集い」が市内各地で開催され、皆さん将来に夢と希望を抱き出席されたことでしょう。遠く離れた孫より二十歳のお祝いをしていただいたと写真が届きました。小さかったあの孫が今では見上げる程背も高くなり、大学ではアルバイトをしながら勉強とサークル活動に頑張っているようで、祖父母の知らない一面を聞き嬉しく思いました。今は18歳で成人となり、自分でいろいろ決定できるようになった分、責任も大きいことと思います。若い人が頑張っている姿は嬉しいものです。しかし、親の教育費の負担は大変なことと思います。学生もアルバイトをして、卒業後は働きながら奨学金を返していく人も多いという。少子化と言われる今、若い世代の負担軽減と、家庭の事情で学べないことがない社会を望みます。

近い将来リニアが通り、この鼎もどんな風になるのでしょうか。高齢者の私も若い世代に負担をかけないように、健康に気をつけて毎日を送りたいと思います。

(上山・高齢者)

みなみ信州 駅伝大会

過去最多4チーム出場
代田 貴嗣

みなみ信州駅伝大会は今年で第8回になり地元
の学生、一般の方々の参
加により12月3日、盛大
に開催されました。

県公民館チームは第1
回から参加しています。
当初は、参加人数を募る
ことに精一杯でしたが、
今年は、過去最多の4チ

ーム参加しました。チ
ームの選手一人一人が仲間
のために襷をつなぎ、ア
ンカーがゴールした時は、
チームの仲間全員で喜び
大きな達成感を得ること
ができました。

私は、このような、地
域の方と顔を合せ、声を
掛け合ったり、喜びあつ
たりすることは地域の活
性化につながると思いま
した。

次回も県公民館チ
ームでエントリーできたら嬉

冬季スポーツ大会 ポッチャ

分館の交流深める
桐山直登

日頃より公民館体育行
事にご協力いただきあり
がとうございます。2月
4日(日)、今年も昨年同
様に、冬季スポーツ大会
はポッチャが行われまし
た。県10分館から30チ
ームと身障協支部から2
チームが参加し、6プロ
ックに分かれ各チーム3
試合を行いました。参加
者の皆さんはすでにルー
ルを把握していただい

おり、体育委員による簡
単なデモンストレーショ
ンだけで試合開始となり
ました。県ジュニアボラ
ンティアの生徒さん2名



優勝 一色分館



しく思います。ありがと
うございました。

令和5年度県公民館長杯 冬季スポーツ大会 大会結果

順位	分館名
1位	一色
2位	下山
3位	上山
4位	石切
5位	東郷
6位	熊名
7位	西郷
8位	茶屋下
9位	茶屋上
10位	中平
11位	協身障

と吉川主事の奥様にもご
協力いただき、予定通り
試合を進行することがで
きました。分館ごと交流
を深めながら、とても和
やかで楽しい時間を過ご
すことができました。

結果は、優勝 一色分
館、準優勝 下山分館、
3位 上山分館。私の出
身地区石切分館も4位と
大健闘でした。



参加できる場になればと
思います。



県の子を語る会

2/2

ボラステを地域の懸け橋に

県中学校長 北原文雄

子どもを育む委員長小
澤澄子さんの通学指導の
お話から、いつも会う子
どもが大人を信頼し、自
分らしく活動している姿
は、このような地域の関
りがあるからこそその姿
だと再認識しました。

子ども食堂を運営する
北村裕美さんのお話をお
聞きし、中学生も関わり
させていただきたいと思
いました。北村さんの大事
にしているものを実際に
感じられると生徒の今後
に役立つものになってい
くと思えます。

夏祭り等で多くの中学
生ボランティアを受け入
れた東郷分館長の中島勇
人さんのお話では、子ど
もは「地域の宝」だと感
じました。子どもたちは
自覚していませんが、そ
の場所にいるだけで、地
域の方々に歓迎していた
だけを知りました。

本校に通う生徒の多く
は、この県を将来担って
いく子どもたちです。だ

からこそ、誰一人取り残
すことなく、そのお子さ
んなりを大切に、この
中学生の3年間を地域
の方々と一緒に育ててい
きたいと願っています。
その懸け橋としての本
校のボランティアステ
ーションは、今後も十分地
域の方の期待に応えられ
ると考えています。

この県には、中学生に
知ってもらいたい大人の
方の取り組みが多くある
ことを知りました。ぜひ
一緒に中学生も関わらせ
ていただき、本校ともし
ば嬉しく思います。

地域を元気に!

切石 矢澤英峰さん(80歳)



切石の天伯八幡神社の秋季祭典に、奉納煙火打上げを35年ぶりに復活させた“エイホーさん”こと、矢澤英峰(ひでたか)さん取材させていただきました。

矢澤さんは自治会役員として「地域を元気に!」をモットーに約10年活動されました。しかし、そこで直面した現実、毎年同じような事業しかできない状況であり、地域としても取り組むべき大きな課題である『少子高齢化・人口減』に対応する時間と資金のない現実でした。そこで役員退任後、自治会で一緒に苦労した仲間と語らって、“見るも一役、遣(や)るも一役”となる区民全員参加型の煙火打上げを計画しました。

当時、35年前に中断していた天伯八幡神社奉納煙火

の復活を望む声が地区内にあり、平成30年秋祭りに大袋グラウンドを会場に復活させました。煙火の醍醐味は、音と同時に開く大輪のため、会場からは遠い見学希望者や高齢者等はタクシー送迎を行いました。明星保育園年長組はマイクロバスで送迎し、思い出作りに協力しました。

とにかく矢澤さんは、切石のことが好きで、皆さんと一緒に楽しみたい、盛り上げたいと考えてくれています。「いくつになっても、知らないことを知りたい、外へ出て多くの方と話をし、楽しみたい」と仰っています。とても80歳とは思えない力強く、前向きな方です。

今は「切石を読む会」を主催し、同好者と地域史を学んでいます。

(取材 岡本美恵)

かなえびと

No.54

おんべ

下茶屋 伊藤史織さん(6年生)



下茶屋のおんべは12月中に和傘の飾り付けをします。小学生みんなで花を作ったり、折り紙でわっかを作ったり和傘につけました。

おんべの前日に親子で下茶屋地区をまわって門松を集めておんべの準備

をしました。今年は6年生で松明を作り、枝の部分に一人一人願い事を書き込みました。当日は、5時20分に集合して、6年生で太鼓をたたきながらおんべ開始を知らせるために地区を回りました。

今年、下茶屋地区の親子みんなで協力して準備を行ったので、良いおんべができてよかったです。

編集後記

公民館活動をする中、この数年「安全」と「安心」が求められてきました。「安全」は知識を持って行動することにより確保され対策を取ることができですが、「安心」は人と人の信頼・繋り・心で実感することでやっとな安心することができると思います。安心に結びつけるにはどうすればいいのか?いつも考えさせられます。今後、何事にも希望を持ち生活するのに、安全を安心へと繋げられ、心を安らかにできる社会になっていけばと思います。(A・S)

お詫びと訂正

公民館報かなえ第425号の表紙に掲載した、夢かなえ隊木下周治さんは、正しくは木下周次さんの誤りでした。お詫びして訂正します。

No.128

令和5年度 鼎地区二十歳の集い

昨年までとは異なり式典参加者は、父兄並びに一般の方々のご来場も制限なく行われ、総勢230名で盛大に祝うことができました。

式典終了後、会場を移し祝賀会も開催することができました。



両親からのメッセージ



実行委員



記念品 (絵馬)



二十歳の抱負



二十歳の集い
実行委員長を経験して
田中俊輔

私が一番苦労を感じた作業は動画作成でした。動画作成の経験はなく完全素人の状態でやりましたが先輩から学びを得て、

時間が多く使い渾身の出来といえる動画を作ることができました。祝賀会で動画を流したのですがみんなの反応が良く、苦労をかけて作ってよかったと思いました。まだまだ語りたいたいがすが時間がなかったので実行委員長の活動を総括して感想を述べたいと思います。二十歳の集いのような大きなイベントを裏方のような立場で経験でき、これからの

人生の為になる時間でした。大変なことばかりでしたが楽しいこともあり、何より本番でのみんなの笑顔、盛り上がりを見られることができ忘れられない一日になりました。最後になりますが、20歳のみんな、20歳の集いに参加してください。来賓の皆様、実行委員を支援してください。皆様、本当にありがとうございます。